

緊急ニュース 都議会激震！自民党裏金問題 続報

野党提案の「政倫審」設置提案を 自公都ファが否決！

都民ファースト、公明党が、自民党裏金問題の
真相究明阻止に協力する構図が鮮明に。



「政治倫理条例検討委員会」で質疑に立つ、関口

私の都政報告レポート Vol.5でお伝えした都議会自民党の裏金問題。今年1月23日に都議会自民党は記者会見を開き、**裏金づくりに関わった自民都議が26名**いたことを公表。

2月10日、都議会は臨時会を開催し、**自民党の宇田川議長が引責辞任**。

2月19日の都議会本会議で、我々都議会立憲民主党は、他の野党6会派とともに、自民裏金問題の真相究明と再発防止策検討のための「政倫審」設置案を提案しましたが、私たちの案は、**真相究明を嫌がる自民党だけでなく、自民党とともに都議会与党を構成する都民ファーストの会、公明党の与党3会派によって否決**される事態となっています。

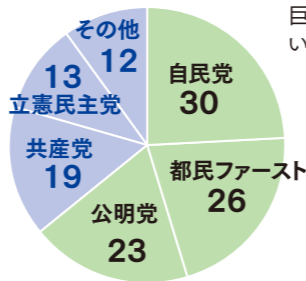
与党三党は窮余の代替案として「政治倫理条例検討委員会」を提案し、可決。

与党が、真相究明を避けて「政治倫理条例」なるものを作ってお茶を濁そうとする姿勢が明らかになりま

した。現在断続的に行われている政治倫理条例検討委員会では、立憲を代表して関口健太郎都議（杉並区選出）らが真相究明のため奮闘していますが、与党三党で都議会の約2/3を占める今の都議会の構成では、裏金問題の真相究明のための議論の場所すら作れない、という状況です。

都民の皆さんの力を貸してください！

都議会会派構成 (2025年4月18日現在)



現在の東京都議会の会派構成。自民、都民ファ、公明の与党3党で79議席、全体のおよそ2/3を占める。3党による巨大与党体制の下、「熟議」とは程遠い都政運営が続いている。

東京都議会議員 **鈴木 烈** (立川市選出)

- 1973年生まれ、51歳。柴崎町在住。都議会議員（一期）
- 家族は、妻、娘（中三）、保護ネコ2匹。趣味は溪流釣り
- 早稲田大学法学部卒。慶應大学大学院修了（社会人入学）
- 全国誌「一個人」の株式会社一個人出版 代表取締役
- 2023年10月の都議補選、酒井大史（現立川市長）の後継者として初当選

七転び八起の人生だから、
あなたの悲しみ、^{いきどお}憤りに共感します。



立憲民主党 東京都議会議員(立川市) **鈴木 烈** 事務所

〒190-0023 立川市柴崎町 3-10-6 イチカワビル 102 TEL 042-506-1788 FAX 042-506-1789 MAIL office@retsu.jp WEB retsu.jp

東京都議会議員(立川市選出)

鈴木 烈

松下政経塾出身
元国際企業経営者

つよく、やさしい東京へ

都議会立憲民主党、
小池知事提案の
2026年度予算案に
反対票を投じる！

3月28日に行われた都議会本会議において、「新年度予算案」をはじめとする議案の採決が行われました。私たち都議会立憲民主党は他の野党会派とともに、予算案および「臨海地域開発事業会計予算」に反対票を投じましたが、自民、公明、都民ファーストの与党3会派の賛成により可決されました。

2か月にわたる審議を通じて、私たち立憲民主党は、**新年度予算は、長引く物価高に苦しむ都民生活を下支えする予算でなければならない**、とのスタンスのもと、賃上げの意欲がありながらも着手できていない中小企業への財政的支

援制度や、家賃高騰で住居の確保に苦勞されている方向けの家賃補助制度の創設等を求めてきました。また私鈴木も、本会議質問に立ち、**あらゆる分野で深刻となっている「人不足問題」に対して、望まぬ非正規雇用で本来の力が発揮できない就職氷河期世代、女性、高齢者への支援策、障害者雇用の促進等、「本質的な人不足対策」を訴えました。**

しかし質疑を通じて明らかになったのは、小池都政は、物価高に苦しむ都民生活には全く無関心。お台場につくる**世界最大150メートルの噴水「ODAIBAファウンテ**



ン（建設費26億2千万円、毎年の維持費2億円）や、かねてから批判の多い**「プロジェクションマッピング」**（次年度15.6億円）など、東京をきらびやかに演出することには極めて積極的。また選挙での集票効果が期待できる、各種現金給付政策には熱心で、まさに「パンとサーカス」の都政となっています。

鈴木 烈「都政報告会」開催 2025年5/25日 開演 14:00

●入場無料 ●所要時間は約1時間半を予定しています

女性総合センター・アイムホール

立川市曙町2-36-2 ファーレ立川センタースクエア内（JR立川駅北口から徒歩4分）



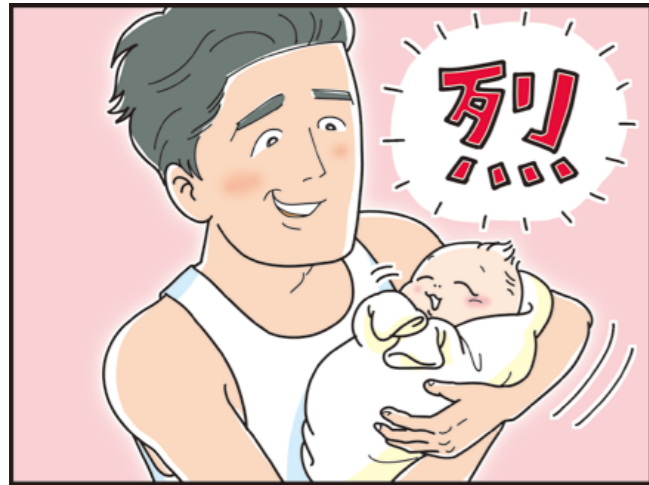
都議会議員としての1年半の取組と、今後への抱負を語らせていただきます。どうぞお気軽にご参加下さい。

鈴木烈とはいったいどんな人間なのか。鈴木烈の政治家としての原点に迫った。

七転び八起き!!

—— どん底から立ち上がる ——

東京都議会議員 鈴木烈



【誕生】1973年生まれ。公務員宿舎で、周囲の視線に窮屈さを感じて育った父は「自分の息子には自由に、烈しく育てほしい」と、「烈」と命名。

中3の期末試験事件

—— 烈さんは、どんな子供だったの？

わんぱくで全然勉強出来ませんでした。中学入試も高校入試も失敗。ずっと劣等感がありました。

—— 政治を志したのは？

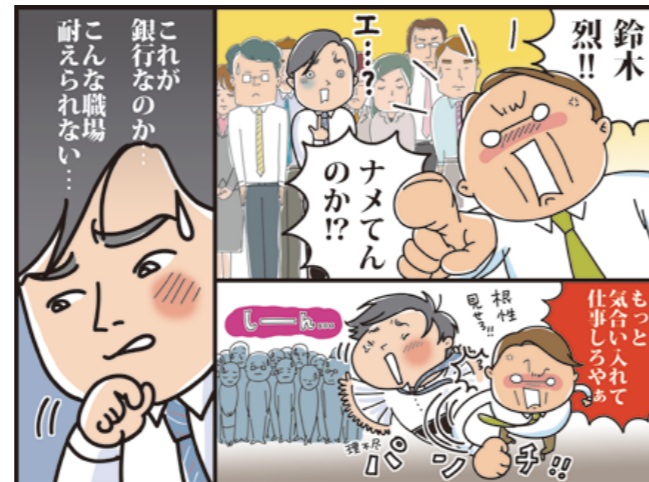
中3のときの事件だと思います。内申点を決める重要な期末試験で教師間の意思疎通に問題があり、一部の生徒が不利となる試験問題が出た。これに憤り、私が先頭にたって授業を二回ボイコット(笑)。その後、責任者の教師と直談判するために職員室に乗り込みました。その結果採点基準が見直されて不公平が解消された。途中、やり過ぎかもと悩んだけど、こっそり応援してくれる先生がいた。最後はクラスメートに感謝されて、勇気を出して不正と闘うことのやりがいを知った。1996年大学卒業後「いずれは政治家に」との思いはあったけど、まずは民間企業で勉強してからと考えて、住友銀行に入りました。

銀行員として苦悶の日々

—— 銀行時代はどうだったの？

銀行では、同期が魅力的な人ばかりで大いに刺激を

受けた一方、配属された支店では驚きました。日常的に暴力を振るう上司がいて、グーパンチで散々殴られた。年長の先輩たちも普通に足蹴にされるのを見て、失望。幸運にも松下政経塾に合格できたので、政治の世界を目指せることになったけど、実際はパワハラに負けてドロップアウトしただけ。内心は挫折感でいっぱいだった。



【心折れたパワハラ】20代、銀行時代に壮絶なパワハラに。銀行をドロップアウト。

区長選落選！一千万円の借金

政経塾在塾中に、民主党の活動に参加。党役員から、民主党が弱かった葛飾区での区議選立候補を勧められ立候補。2001年28歳のときに当選。60名の候補中トップ当選を果たすことが出来たけど、すぐに現実に叩きのめされた。自民党だけでほぼ過半数を占める古い体質の議会で、何もできない。そこで2005年、32歳で葛飾区長選挙に出馬、次点で落選。一千万円以上の大きな借金を背負いました。落選後、再挑戦を模索し、妻が派遣社員として家計を支えてくれました。しかしその後、過酷な選挙と落選で妻が体調を崩したこともあり、政治を断念。台湾で起業した小中学校の同級生の誘いで、夫婦二人で台湾に渡りました。もうホント、ボロボロ。夜逃げ同然でした。



【挫折】30代、葛飾区長選挙に挑戦するも落選。借金1,000万円を背負い、政治をいったんあきらめ、夜逃げ同然で台湾へ。

台湾で経営者として再起

—— いきなり台湾に行って、何をしたの？

2007年、同級生の小さなレストラン企業に入社。お店は好調でしたが、内部の管理体制が崩壊していました。従業員が、会社の将来と人事制度に強い不安と不満を感じ、幹部の辞職が続いていました。期待されて入社したのに、最初の3年はまったく成果が出ませんでした。しかし、単純なことに気づきました。自分たちは、お客様よりも、まず従業員のことを大切に考えるべきだということに気づいたのです。レストランの売上は、現場の従業員のやる気で3割は簡単に変わります。そこで、従業員が心から納得できる人事評価制度と業界最高水準の福利厚生制度を整備。従業員の不満に向き合うために、私自身が毎年全従業員と個別の面談を行って彼らの声に誠実に耳を傾けました。この方針転換が想像以上にうまくいき、会社は順調に成長。その功績が認められ、2012年からは私が社長を任されました。私が2006年に入社した当時は台北市内のみ小さな店舗を4つ、年商約3.5億円の会社でしたが、2018年に



【再起】40代、台湾での14年間は自らの再起もかけて経営者として挑戦。約40人だった会社を約1600人の上場企業に成長させた。

離れるときは、店舗数は10倍の50店、年商は約30倍の約100億円。台湾全土と中国各地に店舗を展開する一大レストラン企業となりました。

一番嬉しかったのは、2013年、当時本社のあった台湾最大の自治体新北市から、『幸福職場ランキング第三位』として表彰されたこと。大きく取り上げてくれた新聞の記者から「こっそり店舗に取材にいったとき、従業員が、会社のことをとても強く褒めていた」ということを聞いてとても嬉しかった。

東京から不公正に立ち向かう！

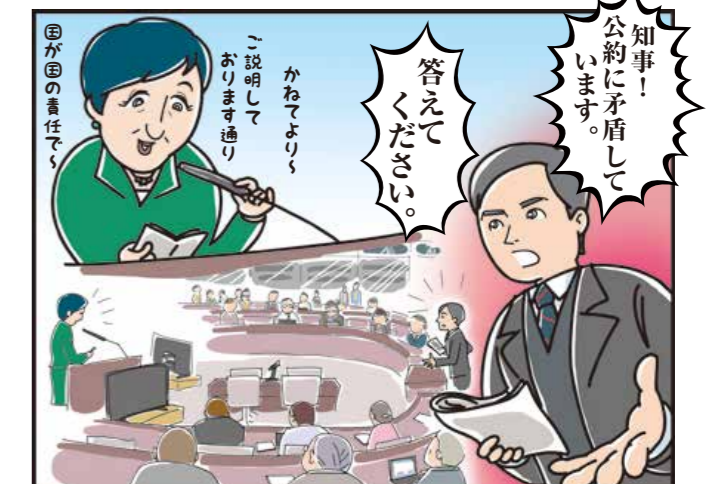
—— なぜ日本に帰国したの？

帰国したのは2019年45歳のときです。2016年に株式公開に成功し、借金も完済。でも、やり残したことがあると感じていた。残りの人生、愛しい日本に戻って、社会のために尽くしたいと思いました。

台湾での14年間で本当に貴重な経験が出来ました。それは日本社会で育まれた自分の価値観を相対化できたこと。台湾と日本の働く環境の違いには驚かされた。台湾には派遣法がない。派遣やパートなどの非正規雇用は厳しく制限されています。誰もが正社員として働くことが出来るフェアな社会。一方で日本社会は非正規雇用がどんどん増えている。正社員も非正規社員も解雇の不安に怯え、若い人たちは安心して結婚もできない。これでは出生率が下がるのも当たり前だし、持続的な経済成長もできない。私はこれを変えたい。

—— 実際都議になって一年半。どうですか？

都議になり驚いたのが都議会の閉鎖性。マスコミも市民の目も届かない都議会では、巨大官僚機構と与党三党の裏取引が横行し、肝心の「議論」がない。議論が無いから、人気取りとバラマキばかり。まさに「パンとサーカス」。「熟議」の都政を私たちが取り戻したい。



【都議として】50代、都議として躍動。わずか一年半の在職ながら、本会議質問2回、本議会派代表討論1回、決算審査特別委員会派代表質疑1回と計4回、小池都知事と直接対決！